

図表 20：医療センターの特色①（がん診療）

地域がん診療連携拠点病院

- ・北九州地区に5病院
- ・がんセンターを中心に全人的なケアを実施
- ・低侵襲ロボット治療センターを活用した高度な医療の提供



■ 外来化学療法センター

ベッド22床、リクライニング6床（計28床）
令和4年度 11,520件
日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法指導医2名
がん化学療法認定看護師3名



■ がんゲノムセンター

がんゲノム医療連携病院 指定
従来の腫瘍細胞を検体とする検査に加え、
令和3年8月に新たに保険適用となった血液を
検体とする遺伝子パネルにも対応



■ 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟 20床
医師、看護師、薬剤師、理学療法士、
管理栄養士、社会福祉士等



院内がん登録 2014-2015年の5年生存率



＜出典＞ 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所がん登録センター 2023年3月公表資料

図表 21：医療センターの特色②（周産期母子医療）

総合周産期母子医療センター

- ・福岡県内に7病院、北九州市内に2病院
- ・ハイリスク症例（母胎22週より対応可能）対応、24時間体制
- ・市内だけでなく、福岡県東南部、大分県北部までカバー

	R1	R2	R3	R4	R5
母体搬送件数(件)	98	70	54	59	53
NICU受入患者数(件)	2,476	1,958	2,031	2,420	2,479



新生児集中治療室（NICU）

- 【産科病棟】 母体・胎児集中治療室（MFICU） 6床
一般産婦人科病棟 25床
- 【新生児病棟】 新生児集中治療室（NICU） 9床
新生児治療回復室（GCU） 12床 計52床
- 【専門医】 日本周産期・新生児医学会
母体・胎児専門医暫定指導医 1名
専門医 1名、新生児専門医 1名
臨床遺伝専門医 1名

図表 22：医療センターの特色③（感染症医療）

第二種感染症指定医療機関

- ・市内唯一の第二種感染症指定医療機関
- ・二類感染症が発生した場合に患者受入から治療まで実施
- ・平成11年4月に県より指定、16床の病床を設置

【二類感染症】

感染力及び罹患した場合の重篤性からみた危険性が高い感染症

結核、ジフテリア、SARS、MERS
鳥インフルエンザ（H5N1, H7N9）等

【医療措置協定に基づく第一種協定指定医療機関】

- ・新興感染症等の発生及びまん延に備えることを目的とし、平時より福岡県と医療提供体制の確保に関する協定を締結
- ・新興感染症等の発生早期から患者の入院受入を実施する



【新型コロナウイルス感染症への対応】

- ・発生初期（令和2年2月）より入院受入を開始
- ・新型コロナの手術や分娩も実施し、県の重点医療機関として市内の医療機関の中心的な役割を担う
- ・新型コロナ新規入院患者数
（R2：116人、R3：279人、R4：363人、R5：317人）

図表 23：医療センターの特色④（災害拠点病院）

福岡県災害拠点病院

- ・災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関
- ・被災によって機能不全に陥らないよう施設面や医療提供体制、備蓄品等が整えられている必要がある
- ・定期的な大規模災害訓練を行っているほか、DMATやJMAT等の災害医療チームの派遣も実施



大規模災害訓練の様子



能登半島地震 出発式の様子

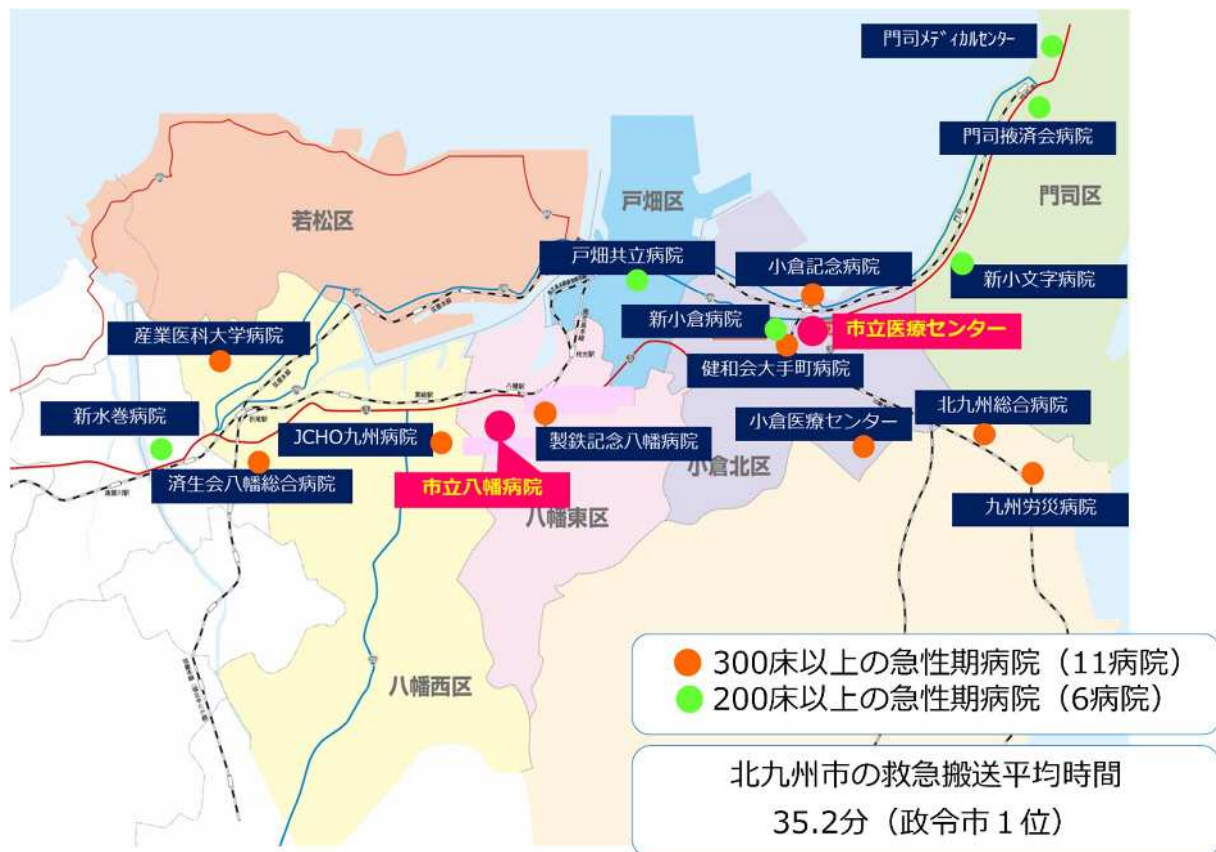
【災害時の医療チームの派遣】

災害拠点病院として、大規模災害地域等に事故現場での医療を担当する専門の訓練を受けた医療チームを派遣

（派遣実績）

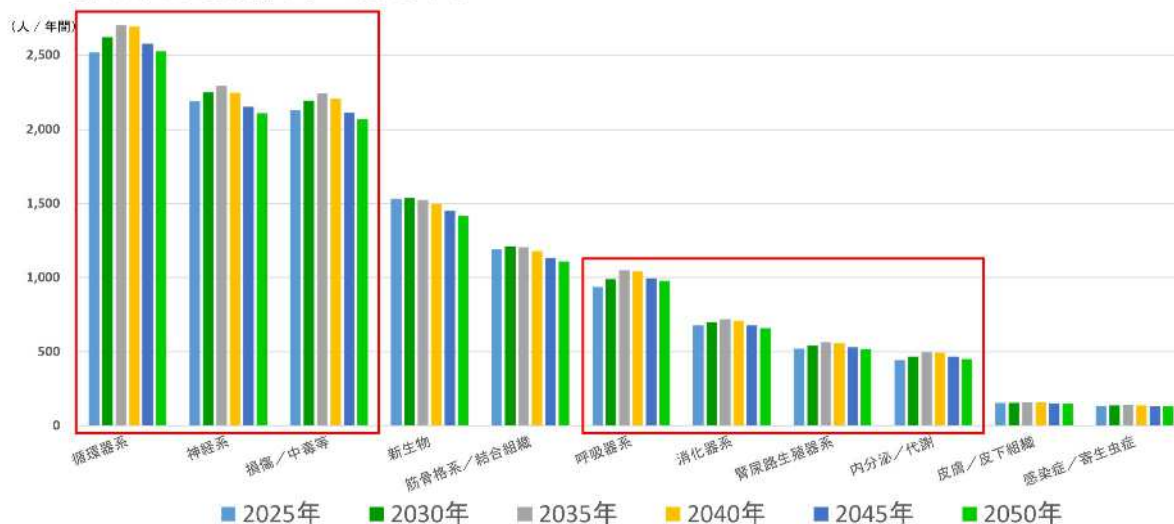
- ・令和2年度：熊本県豪雨災害被災地にDMAT派遣
- ・令和5年度：石川県能登半島地震被災地にJMAT派遣

図表 24：北九州二次医療圏の状況



図表 25：北九州二次医療圏 主な疾患分類の推計入院患者数

- ・北九州二次医療圏における推計入院患者数は、循環器系、神経系、損傷/中毒、呼吸器系、消化器系、腎尿路生殖器系、内分泌/代謝は2035年頃まで増加し、その後減少に転じると見込まれる
- ・2025年と2050年の入院患者数比較では、神経系、損傷/中毒等、新生物、筋骨格系/結合組織は減少するが、それ以外は大きく変わらないと見込まれる



【出典】 国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢（5歳）階級別将来推計人口-『日本の地域別将来推計人口』（令和5年推計）、令和2年患者調査 都道府県編 『閲覧第1表（その2）推計患者数（患者住所地）、性・年齢階級（10歳）×傷病中分類×入院-外来・都道府県別（入院）』

図表 26：北九州二次医療圏における疾患別シェア率（R4 DPC 退院患者数）

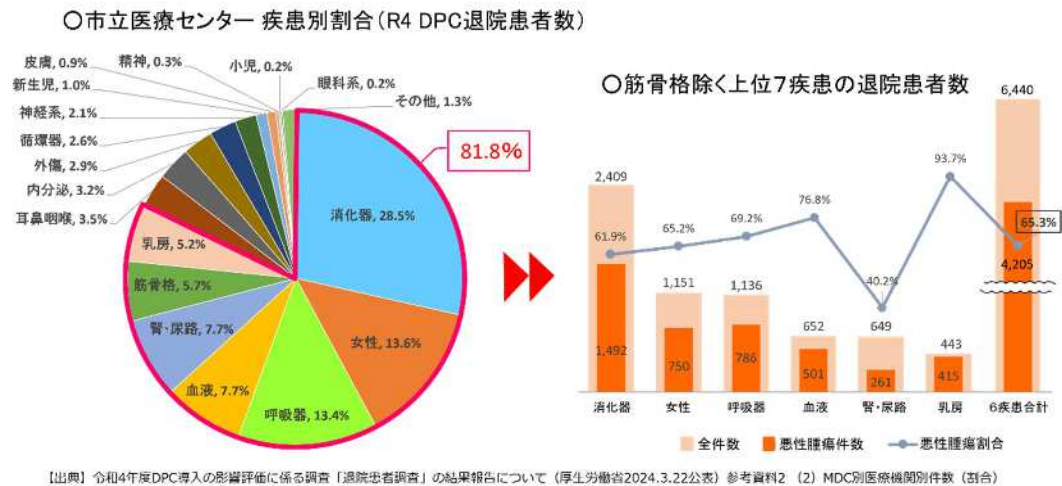


【出典】 令和4年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告について（厚生労働省2024.3.22公表） 参考資料2 疾患別手術集計_施設類型別



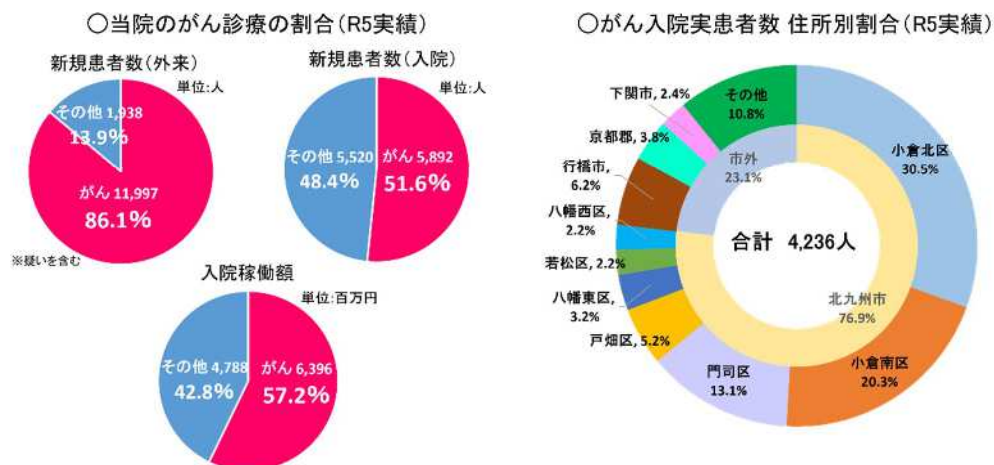
図表 27：疾患別割合（R4 DPC 退院患者数）及び筋骨格除く上位7疾患の退院患者数

- ・疾患別患者数（退院）は、上位7疾患で全体の81.8%
- ・上位7疾患のうち、筋骨格を除く6疾患では65.3%が悪性腫瘍（がん）



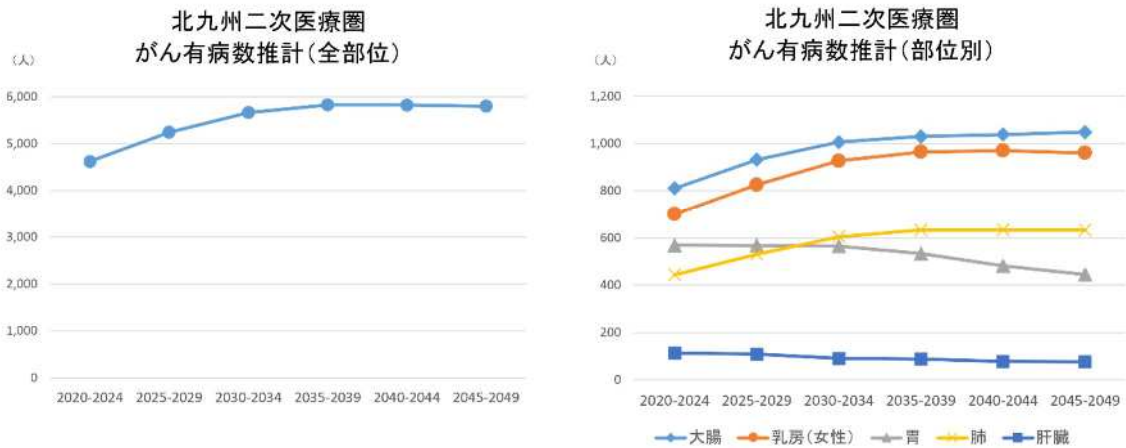
図表 28：市立医療センターのがん診療

- ・がん診療の占める割合は、入院新規患者数、入院稼働額では5割超、外来新規患者数では8割超
- ・がん患者の入院実患者数では、市外在住が23.1%



図表 29：北九州二次医療圏 がん有病数将来推計

- ・がんの有病数全体は2035～2039年の期間まで増加し、その後は横ばいになることが見込まれる
- ・部位別(5大がん)では、胃がんと肝臓がんは減少傾向だが、その他は全体と同様の傾向が見込まれる



【出典】国立社会保障・人口問題研究所 都道府県・市区町村別の男女・年齢(5歳)階級別将来推計人口『日本の地域別将来推計人口』(令和5年推計)、Cancer Prevalence Projections in Japan and Decomposition Analysis of Changes in Cancer Burden, 2020-2050: A Statistical Modeling Study. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2023;32:1756-70(国立研究開発法人国立がん研究センター公式サイト「4.将来推計」より)

【有病数】過去5年以内にがんと診断され、推計対象年に生存している者の数(5年有病数)

図表 30：新市立医療センターの診療機能

- ・北九州二次医療圏内のがん有病数は今後も増加傾向にあることから、現在の強みであるがん診療を中心とした診療機能の充実を図っていく
- ・がんを中心としながらも、地域の疾病構造や医療環境を踏まえ、他病院では診療が困難な疾病に対応できる専門性の高い診療機能を維持していく

〇市立医療センターのロボット支援手術実績

